

第3回 まちなか公共空間等における「芝生地の造成・管理」に関する懇談会
議事概要

日時:2019年10月31日(木)10:00～12:00

場所:中央合同庁舎3号館6階都市局議室

※ 事務局より、資料に基づき第2回懇談会の振り返りがあった後、ゲスト委員からの発表と、出席者間における意見交換が、以下のようになされた。

[URにおける芝生広場の整備・利活用について]

- 公団時代に団地設計要領等により良好な居住空間を確保するなど多様なみどり空間を創出し、芝生空間も整備してきた。
- URでは基盤整備工事共通仕様書、植栽基盤ガイドブックにより芝生空間を整備している。植栽基盤の土壌試験を行い、必要に応じて土壌改良を行う。材料はノシバ、コウライシバ、踏圧に強い改良芝を用いる場合もある。
- 芝生の管理は、基盤整備工事共通仕様書保全編、植物管理マニュアル等を用い工事として発注し、グリーンマネージャーが監理している。修景・鑑賞を目的とした芝生型、雑草が混在している雑草型、多少裸地化している状態の裸地型の3つに類型化し、雑草型を標準に管理している。
- 5つの視点「location（位置）、scale（規模）、safety（安全性）、comfortability（快適性）、linkage（他の施設との関係性）」に配慮されている芝生空間がよく利活用されている。
- 管理費の財源は居住者からいただく共益費であるため、管理水準にも限界がある。なお、URが行う大規模な修繕は周期20年に1回となっている。芝生の管理効率の向上にむけて芝刈りロボットの導入も検討しているが、安全管理と集草が課題。また、居住者によるボランティア管理の導入については今後の検討としている。
- 利活用の促進のため、自治会等との連携やイベント周知の連携、柔軟なエリアマネジメントの導入、NPO法人・民間事業者との連携等も検討。実際にエリアマネジメントにより芝生空間の活用を図っている事例もある。
- まとめとして、団地の芝生広場は公園等と異なり居住者の生活の場であるので、安心して信頼できる場所であることが重要であり、こどもの社交場等として日常に溶け込む空間であり、自治会の活動の場等として地域コミュニティの形成にも寄与している。

[ツカウ芝生とみどりのチカラ ～南池袋公園の取り組みについて～]

- ランドスケープは、地域の社会資本をつくりだし、持続可能な社会をつくっていくことが使命だと考えている。豊島区庁舎の整備にあたっては、区が失った自然資本を庁舎の中に再生し、子

供たちに伝える場として、最上階に「豊島の森」をつくった。

- 地域の自然資本を地域の人に理解してもらって、持続的に価値化していくことが大事であり、庁舎が中心となって魅力的なまちづくりをしていく中で、まちなかの公園に着目した。
- 庁舎のすぐそばである南池袋公園は土地の歴史等を踏まえ、コンセプトの検討を行った。芝生空間を含む公園の運営を行う「南池袋公園を良くする会」の設立にあたっては、日程調整や議論ができるように、規模を小さくし、またみんなが合意できるまで議論できるような組織とした。また、運営費が必要なので、カフェの売り上げを寄付頂くこととした。
- 1年くらいかけて運営していく中で、商店街や町会の方々が、芝生がその場所にとって一番大事な要素だという認識ができあがった。「芝生」は管理に手間がかかるが、そのことが芝生を大事に育てるという関係者の共通の意識を有する可能性がある。また、子どもたちやその親に公園や芝生の使い方について説明もしている。
- 「芝生」は自然資本(生物材料)であるので、丁寧に、また長い時間軸を念頭に管理する必要がある。1年目の芝生空間は年間のうち2~3割を閉めたが、未来のためだと、禁止のサインなども出さず、管理している人が丁寧に説明した。
- まとめとして、1)豊島区の社会的共通資本を再発見する拠点としての新庁舎、2)官民連携による公園経営を軸に据えたマスタープラン策定、3)地域に根差した空間づくりと仕組みづくりで価値化を牽引、4)芝生がシビックプライドを生み出し池袋全体に変化を促す、ことにより、池袋全体に変化をもたらした。
- 南池袋公園以外でも、九州でも芝生を入れた公園づくりを行っている。公園の作り方として、地域の人たちと、「山」と「まち」をつなぐ場として、芝生を使った日本庭園の手法を用いている。

〔 ゲスト委員からの発表への質疑応答 〕

- 芝生空間の管理にあたり、地域と実際の管理の間をつなぐ役割が必要であり、その人材育成も重要である。つなぐ役割を担っているパークコーディネーターがいる公園は、うまく利用調整がなされており、公園の評価も高く、利用が増えるだけでなく、周りの人口が増えるという事例もある。市民団体やステークホルダーをつなげて、課題解決に導くコーディネーターや中間支援組織が必要である。
 - 芝刈りロボットを導入している公園の芝生は、集草が不要。人間はガーデニングや剪定などに従事できている。
 - 平賀ゲスト委員の時間軸の話は大事な話である。骨子の技術のところは、植物であるので、時間軸に対する柔軟性が必要なところを入れられないか。
 - URの管理について、植栽基盤は10センチ程とのことだが、もっと下層を一時貯留する機能をもたせる可能性があるのか、どのような土層になっているのか伺いたい。また、管理は複数年になっているのか、雑草の進入は許容しているとのことだが、薬剤を用いているかについて伺いたい。
- ⇒ 10センチの耕うんは地ごしらえで、植栽基盤としては有効土層を確保している。管理は3年工

期の工事として発注しており、雑草について薬剤を使う事例は少なく、草刈で対応している。

- ウォーカブル空間の実現には、アメニティとセキュリティの要素が重要と考える。芝生は、クールスポット、安全、雨水貯留というまちの安全を守るという観点を入れると良い。
- 日常づかいとイベントづかいの関係として、ブライアントパークの成功のポイントとして10の要素があるといわれているが、清潔、安全、園芸、照明、いす、食事、トイレ、アメニティと続き、イベントが9番目、デザインが10番目となっており、日常づかいという観点の方が大事である。中間取りまとめの議論にもつながるのではないかな。
- URの事例も池袋の事例も、芝生管理の取り組みが、より広範なまちづくりへの課題解決の取り組みにもつながる話となっているのが興味深い。
- 芝生の管理の大変さがかえって芝生の愛情につながっていくというのは面白い視点である。
- 南池袋公園において、そもそも芝生にした理由についてお聞きしたい。
- ⇒ マスタープランを作るときに南池袋公園は都市のリビングにというコンセプトがあった。また、植栽基盤が薄く、排水性がよく芝生にとって最適な環境であったため芝生空間とした。
- 芝生がグリーンコミュニティを形成する、各ステークホルダーをつなぐ触媒ということが示された。

※ ゲスト委員の発表への意見交換後、事務局より中間とりまとめ(骨子)について説明し、出席者間における意見交換が、以下のようになされた。

〔 中間とりまとめ(骨子)についての質疑応答 〕

- 都市の多様性のイノベーションに関する懇談会と同様に、まとめは強いキーワードで示せると良い。本日のゲスト委員のお話から、コミュニティ(Community)、コネクション(Connection)、クリエイティブ(Creative)、オープン(Open)、オポチュニティ(Opportunity)、リラックス(Relax)、リレーションシップ(Relationship)、エンジョイ(Enjoy)、経済へのエンジン(Engine)がキーワードになると感じた。頭文字を読むと、「芝生が CORE になる」というメッセージを提案したい。
- 池袋の事例は芝生を造るのが目的ではなく、まちにつなげていく。集まれる拠点があり、誰もが議論に加わりやすい「芝生」があったというのがポイントと感じた。「組織のあり方」でこの点を強調できると良いのではないかな。
- 管理費に応じた水準があるので、日常管理の事例として、コストもどれくらいか単価を示せると良いのではないかな。横浜市の例では(㎡あたり)約 4,000 円から約 400 円と幅がある。
- 植物を扱う場合は、時間軸・空間の考え方が大事だと感じた。公共空間を整備する際にも、管理・運営までを見据えて、設計・施工を行う組織体制が必要。また、対象地だけでなく周辺土地利用や利用者の変化なども受け止めながら、設計・管理運営していく体制が求められる。
- 行政においても横断的に考えるコーディネーター的な立場や組織が大事であり、仕組み、組織づくりについて具体的に打ち出せると良い。

- 継続的な維持管理資金の確保は重要である。占用料を公園の管理に充当するなど、国として大きな方針に踏み込んでとりまとめに反映してほしい
- コーディネーターのプロが必要であり、人材育成のしくみが必要である。コーディネーターには、SDGS、まちづくり、イノベーション的な視点が大事である。
- 骨子の項目に、植物であるということで時間軸に対する柔軟性を加えて頂きたい。人の踏圧で芝生が劣化するところは、動線のあり方を考える等も必要。
- 防災との連携は他分野との連携の中に入れても良いのではないか。例えば公園であれば、日産スタジアムの多目的調整地が有効に機能した事例もある。芝生についても広く連携事例を入れて頂くと良い。
- 「森林浴」、「公園浴」のように、「芝生浴」という言葉があると親しみやすい。それを広げる「芝生コンシェルジュ」があると良い。
- 今日のまとめと、中間報告をどう考えるかについて、都市の多様性のイノベーションに関する懇談会とこの懇談会をどう絡めるかであるが、芝生だけで議論を矮小化すると、陳腐化すると懸念され、ウォークアブルなまちをどうしてつくるかということも意識する必要がある。
- 芝生は、安全・安心、快適性のほか、路面店の活性化についてもつながり、商業の形が「モノ」プラス「コト」を売る形に転換する中、環境をプレゼンするという意味で芝生空間はライフスタイルと親和性を見せる。
- IoT との親和性もあり、芝生は単層で比較的フラットな空間であるため、パーソナルモビリティ、サービスロボットなどとも調和できる。
- 一方、デジタルにおけるストレスが増してくる中、アナログ空間は人間性を開放させる場所になるなど、総合的な観点からみても、芝生が有効だと示されている。